

全国養護教諭 連絡協議会



全国養護教諭連絡協議会ホームページアドレス <http://www.yougo.jp>

会報

NO.86

令和5年3月 発行
全国養護教諭連絡協議会
代表者 小林 幸恵
東京都港区芝公園 2-6-8
日本女子会館 4階
TEL.:03(3433)5767
FAX.:03(3433)5768

「つなぐ～これまでとこれからを～」

全国養護教諭連絡協議会

副会長 安藤 季美



会員の皆様には、日頃より、本会の運営等に対して、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

文部科学省より令和5年1月「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」における議論の取りまとめが公表されました。「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方に係る議論の動向並びに当面する学校保健活動に関する課題等を踏まえ、それらに対応するための方策等について養護教諭の資質向上を念頭に、幅広く検討が重ねられた内容が示されております。この取りまとめを検討の一助として、今後各関係機関での議論のもと、職務の範囲の明確化や重要性の再認識、その職責を遂行するため継続

的・体系的な資質能力の向上に向けた取り組みが展開され、以て、子供たちの心身の健やかな成長を担う学校の中で、養護教諭に期待される役割が十二分に発揮されることを期待したいと示されています。

さて、去る2月17日「第28回研究協議会」を3年ぶり会場参集でハイブリッド開催（動画配信期間3月7日から4月9日）いたしました。人数を200人と限定した形ではありますが、全国各地よりご参加いただき、盛会のうちを終了することができました。改めてお礼申し上げます。

本会は、昨年度と今年度の2年にわたり、「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する～新しい時代の保健室経営のあり方とは～」について研究協議会と研究誌「瑞星」を通して追究して参りました。

会員の皆様のご協力により、研究誌「瑞星」第13号を12月に発刊することができました。この中では、予測困難な時代の中で生じる新たな現代的課題の解決のため、教職員、地域、専門家等との連携・協働を深化させた保健室経営を軸に、養護教諭の専門性を発揮し、その解決に向けた保健教育・保健指導の素晴らしい実践を紹介しております。

さらに、今回の研究協議会におけるフォーラムでは、「瑞星」の執筆者の方々にシンポジストをお願いしました。シンポジストの方々からの貴重な提言に加え、ご参会いただいた皆様との意見交換により、「連携・協働を深化させた新しい時代の保健室経営のあり方を通して」というフォーラムのテーマに迫ることができたのではないかと思います。

また、今年度は、隔年抽出で実施しておりました「養護教諭の職務に関する調査」を、初めて全会員へお願いいたしました。ご多用の中ご協力いただき、ありがとうございます。これらの結果は、文部科学省をはじめ、関係省庁や関連団体への要請・要望における資料の根拠として、大きな意義を発揮しております。

これからも、養護教諭の資質向上、職の充実・発展のために、取組を積極的に進めていきたいと考えております。今後とも、各研究会・会員の皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

祝 文部科学大臣表彰

令和4年度学校保健及び学校安全表彰

〈養護教諭〉6名	山形県	山形県立鶴岡中央高等学校	佐賀井 淳 先生
	埼玉県	埼玉県立草加東高等学校	道上恵美子 先生
	千葉県	千葉県立千葉西高等学校	川口 聖子 先生
	千葉県	八千代市立みどりが丘小学校	石井 智子 先生
	奈良県	奈良県立桜井高等学校	藤岡 夏枝 先生
	岡山県	備前市立片上小学校	西田 直美 先生

全国養護教諭連絡協議会に望むこと



公益社団法人日本学校歯科医会 会長 川本 強

全国養護教諭連絡協議会の先生方におかれましては、日頃より学校歯科医の活動にご理解、ご協力を賜り、この場をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。

さて、今回、「全国養護教諭連絡協議会に望むこと」とのお題をいただき、望むことは何なのかと思いを巡らせました。日本学校歯科医会は三師会の中で唯一学校歯科医会として活動し、学校歯科保健に特化した事業を行っております。学校での保健活動に直接携わっている皆さま方に望むことは、現場に立脚した「協働」です。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大がとうとう3年目に突入り、第8波の到来となりました。長期にわたり政治経済ともに混沌とした世相が続く中、子供たちにとってはコロナ禍での生活様式の変化に起因する疾病やメンタルヘルスなどの健康課題が顕在化してきました。そこで、生涯にわたって自律的に歯・口の健康づくりを進めるために、我々学校歯科医がより積極的に学校歯科保健活動に参画していくことが求められると考えております。日本学校歯科医会では新たな取り組みを三つ実施いたしました。一つ目は、コロナ禍における児童生徒の心身の変化に関する調査研究です。コロナ禍前後での児童生徒の口腔内がどのように変化したか、またコロナ禍が児童虐待に変化を及ぼしたのかを調査しました。二つ目は、学校から支給されているタブレットを利用し、児童生徒が気軽に学校歯科保健について学べるようなツールの作成を行いました。三つ目は、日本学校歯科医会が発行している学校歯科保健に関する資料を活用している児童生徒とそれを活用していない児童生徒との間にどのような口腔内の変化がみられるのかを調査いたしました。

以上の新たな取り組みに関する成果は、本年3月までに皆様に発表できるよう進めているところではございますが、これらの取り組みの基盤となるのは、まさに全国養護教諭連絡協議会の先生方をはじめとした学校関係者の皆様の現場の「声」でございます。

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子供たちの健康課題を多様化、複雑化にしており、子供たちの健康教育として「歯・口の健康づくり」の推進は最もすすめやすく、学校歯科医・歯科衛生士の方々、学校栄養教諭・学校栄養士の方々と連携をはじめ、学校・家庭・地域との連携は不可欠です。今後とも児童生徒の健康増進の観点から文部科学省を始めとする関係諸団体等とも連携を図りながら、学校歯科保健活動の普及啓発に携わっていきたいと考えております。末筆ではございますが、貴協議会の益々のご隆盛と会員の先生方のご健勝を祈念し、結びとさせていただきます。

全日本中学校長会 会長 平井 邦明



現在、子供たちを取り巻く社会環境や家庭環境は大きく変化し、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加など様々な健康上の課題が生じています。そのような中、令和3年1月の中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、健康教育において、児童生徒等の心身の状況等を踏まえた個に応じた指導・支援を充実させることにより、生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための資質・能力（健康リテラシー等）を育成することが重要であると指摘されました。

各学校では、子供たちが健康課題の解決に主体的に取り組み、生涯にわたり心身の健康を育む基礎的な素養を身に付けさせることが期待されていることから、健康の保持増進と体力の向上に向けて、保健体育の授業の充実だけでなく、保健学習や保健指導等において健康教育の充実に努めているところです。しかしながら、子供たちの抱える様々な健康課題を解決するには、学校の教職員だけでは難しく、医療関係者や福祉関係者などの地域の関係機関との連携が不可欠となっている現状があります。このような中、特に養護教諭には、「専門性を発揮しての学校保健推進の中核的な役割」、「他の教職員や専門スタッフと連携するためのコーディネーターとしての役割」を通して、組織的な学校保健の展開が期待されています。また、健康課題のある子供たちへの個別の支援だけでなく、先が見えない新型コロナウイルス感染症への対応等においても、頼られる存在であることは間違いありません。

全日本中学校長会では、「多様化、深刻化する子供たちの現代的な健康課題の解決には、養護教諭を学校保健活動推進のための中核としながらも、校内組織体制を確立し、家庭、地域、関係諸機関との適切な役割分担とともに、連携して取り組んでいく必要がある。」という認識に立ち、「全日中新教育ビジョン」に「健康な心と体の育成」を位置付けております。今後も、全国養護教諭連絡協議会の皆様と連携しつつ、学校保健を重視し、健康課題の解決に取り組む学校経営を円滑に推進していく所存です。

第28回研究協議会開催要項

主 題

「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する」 ～新しい時代の保健室経営のあり方とは～

特別講演

「スマホ時代に養護教諭が 知っておきたい事」

兵庫県立大学 准教授

竹内和雄氏



参加者感想

- ・この先生になら話してもいいと思ってもらえる養護教諭になりたいと思う。
- ・おとなの常識を押し付けるのでは、子供の常識にありという言葉、ストンと落ちた。
- ・これから生徒の話に寄り添って行く姿勢を貫きたいと思う。
- ・ネットは心の問題であることを再認識しました。
- ・軽快なリズムに引き込まれ、主体的、対話的に参加することができました。
- ・取組のヒントが見つかり、深い学びにつながったように思う。

基調講演

「養護教諭のさらなる 資質向上を目指して」

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課
健康教育調査官

松崎美枝氏



参加者感想

- ・私たちが知っておくべき情報について整理できた。
- ・最新の情報についてもご説明いただき、ブラッシュアップにつながりました。改めて出典を確認したいと思った。
- ・養護教諭の資質能力の向上を図る上での課題と解決に向けた方向性をお示しいただき勉強になった。

フォーラム

「連携・協働を深化させた新しい時代の 保健室経営のあり方を通して」

コーディネーター びわこ学院大学 教授
岩崎信子氏



参加者感想

- ・校内外での連携について、実践と評価の一体化について改めて振り返りたいと思う。
- ・自分のできていないことが明確になり、やらなければならないことを一つ一つしっかりやっていきたいと思った。
- ・保健室経営は1人ではできない、組織で動くことの大切さを改めて学びました。
- ・毎回刺激になる。全国に頑張っている養護教諭がいると思うと勇気になる。

全体の感想

- ・学びの場の必要性、学び続ける事の必要性を改めて感じた。
- ・久しぶりの会場参集に参加。人との繋がりはやはり同じ空間を共有することだと再認識した。他県の方と交流することもでき大変有意義な会だった。
- ・初めての参加。まだ経験が浅く上手くいかないことばかりですが、今回お聞きしたことを参考に頑張りたいと思った。
- ・今後もWEB開催があると嬉しい。地方だとなかなか動きにくいので、勉強の場所が増えることはいいことだ。

シンポジスト



横浜市立上菅田笹の丘小学校
副校長
徳永久美子先生



岡山県津山市立津山東中学校
養護教諭
石原 亜純先生



群馬県立下仁田高等学校
養護教諭
中嶋由佳里先生



埼玉県立越谷西特別支援学校
養護教諭
渡邊登志子先生

研究会交流コーナー

◆北海道高等学校養護教諭研究会

本会は昭和61年に、北海道の高等学校が抱える独自の課題解決を図るため、「高等学校に勤務する養護教諭としての特性、専門的知識並びに技能の向上を図り、もって学校保健の発展に寄与する」ことを目的として発足しました。また、昭和62年の北海道高等学校教育研究会（高教研）養護部会開設の基盤となり、以後毎年冬に開催される高教研養護部会の運営も担っています。会独自の事業としては、毎年夏に高養研研究協議会を開催しています。広い北海道のため、全道に勤務する養護教諭と交流できるのは年に数回しかありませんが、貴重な機会を大切にして活動を続けています。令和4年度の会員数は約100名です。

【研究活動】

例年、夏に高養研研究協議会、冬に高教研養護部会の年に2回、研究協議会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度は講演を中止し、総会は書面決議で実施。令和3年度はオンラインで実施しました。令和4年度は感染症対策を行い、対面とオンデマンド配信で2回とも実施することができました。3年ぶりの対面での研究協議会とはとても感慨深く、直接顔を合わせて実施する事の意義を強く感じました。

本会の研究協議会は、「高等学校における今日的な健康課題の解決に向けて一養護教諭の果たす役割と連携のあり方について」を主題として、講演・研究発表・学校保健の動向についての情報提供の三本柱で実施しています。研究発



表は、全道各地区から様々な取組みが発表され、研究テーマに沿った協議や、地域や学校規模を超えた実践交流を行っています。

【広報活動】

会報「高養研」を年に2回発行し、令和4年度11月号で第73号となりました。研究協議会の案内・報告の他、会員からの寄稿や、全養連等の研修会の参加報告等を掲載しています。本会のホームページからも閲覧可能ですので、お時間のある時に是非ご覧ください。過去の会報を読むと、その時代の健康課題や養護教諭を取り巻く状況が見えます。現在のような養護教諭の専門性が一層求められる時代には、養護教諭同士の繋がりが本当に力になります。未来を担う子ども達のために、互いに学び、力を合わせながら、柔軟に活動を続けたいと思います。

(文責 北海道高等学校養護教諭研究会 副会長 堀川 智恵)

◆滋賀県養護教諭研究会

本研究会は、昭和23年6月12日に「滋賀県養護教諭会」として発足し、114名の会員から成る研究団体として誕生しました。その後、昭和41年には、滋賀県教育委員会の各種研究会の統合・整理により、滋賀県養護教諭研究会も校種別研究部会の保健部会に属し、それぞれが研究をした時期もありましたが、昭和46年には再び、小・中・高等学校・特別支援学校に勤務する養護教諭が一体となって研究を進めることとなりました。現在会員は、県各市町の指導主事を含む国立・公立・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の養護教諭448名が加入しており、研修会等は会費によって運営しており、養護教諭の資質向上と学校保健の向上に寄与することを目的とした研究団体として活動しています。

【総会・研修会】

本研究会は、発当初から研修会開催に重点を置き、現在では1学期の総会と夏と秋の2回の研修会を開催しています。令和4年8月には、1年遅れにはなりましたが「養護教諭職制80周年」の記念大会を開催することができました。当日はハイブリッド形式の研修会として、ライブ配信も行いま



した。職制80周年の記念講演として、元アナウンサー：清水健さんを招聘し「大切な人の『想い』とともに」の演題で、大変感動的なご講演をいただきました。写真は、その時に撮ったものです。

本研究会は、研究誌の発行にも力を注いできたという歴史があり、それらをまとめた研究誌は「養護の歩み」から、現在の「養護教諭の職務研究」へと名称を変え、74年間発行してきました。

また、機関誌「すこやか」は、昭和56年度から1年に3号発刊しており、令和4年度末には、125号を発刊予定です。(文責：R3.4年度滋賀県養護教諭研究会会長 吉田 志津代)

◆島根県養護教諭研究連絡協議会

本会は昭和22年に「養護教員会」としてスタートしました。昭和29年から55年までは学校保健会の下部組織「養護教員部会」として活動しましたが、昭和56年には養護教諭に関する諸問題について協議し、その問題を解決することを目的とした養護教諭独自の会として「島根県養護教員会」を結成しました。校種により様々な組織の変遷をたどりながら、平成5年には幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校それぞれの養護教諭が所属する教育研究会の連合体として「島根県養護教諭研究連絡協議会」が発足し、現在に至っています。今年度は会員数401名（うち役員21名）で活動しています。

【研修会】

現代的健康課題について理解を深め、適切に対応できる実践力を身に付けるなど、養護教諭の資質向上を図ることを目的に毎年「夏期研修会」を開催しています。1日目の3講演、2日目の5分科会（性に関する指導・心の健康・危機管理・健康教育・救急処置）で構成し、分科会は各地区の理事を中心に企画力や運営力を発揮しながら取り組んでいます。本研修会は県内の会員が一堂に会し交流を図る貴重な機会ですが、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得ませんでした。翌年度からは新たな方法としてオンラインを活用し、講演のみではありませんが研修会を開催しています。今年度は名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授の内田良先生に「学校をカエル？もともとモドス？-コロナ禍から「みんなの安心」を考える-」というテーマでお話いただきました。学校生活の様々なリスク情報が集まり、その背後の課題が見えやすい保健室で、養護教諭はこうした影の部分に向き合うことのできる立場であることを自覚し、リスクの敏感な察知やエビデンスに基づく情報を発信



していく必要性を改めて強く感じました。

【学校保健統計調査資料の発行】

「島根県学校保健統計調査資料」は、昭和56年度の初刊以降、県の担当課と連携して毎年調査、作成を続けています。県や全国との比較資料としてだけでなく、子供たちの体格や健康状態の推移から、その背景となる社会環境や生活環境の変化をも映し出す貴重な資料となっており、各学校等における健康教育の推進に活用されています。

【会報の発行】

毎年2月には、養護教諭が所属する各教育研究会で行われた研修内容を「会報」としてまとめ、広く共有しています。今年度で31号となりますが、幼児から高校生までの各発達段階に関わる養護教諭が感じている健康課題や課題解決への取組を知るだけでなく、お互いの熱い思いを共有できる大切な媒体となっています。

コロナ禍で地域の仲間づくりや先輩の経験や取組から直接学ぶ機会がもたれにくい現状ではありますが、今後も効果的な方法を模索しながら養護教諭間のネットワークづくりと専門性の追究に努めていきたいと思っております。

（文責 島根県養護教諭研究連絡協議会 会長 藤原 利恵）

◆熊本県養護教諭研究会

本会は、平成20年度発足の「熊本県養護教諭研究協議会」を前身とし、平成23年度に「熊本県養護教諭研究会」と改名、現在のような主体的な活動を始めました。研究テーマ「『生きる力』を育む健康教育の創造」、努力目標「現代的健康課題解決への実践力や組織的対応力を高め、養護教諭の専門性を追究しよう」を掲げ、養護教諭同士のつながりを大切にしながら、会員一人一人の資質の向上を目指しており、今年度は535名で活動しています。

【研修会、研究協議会の開催】

例年6月に総会・研修会、8月に夏季研修会、12月に研究協議会を実施しています。この3年はコロナ禍のため、主にICTを活用し、研修の充実を図りました。オンデマンドやオンラインなど研修内容に合った方法を選んで実施し、そのメリットが大いに活かされ、参加者からも大変好評でした。運営側のICTに対するスキルも向上し、コロナ禍のピンチもチャンスに変えることができたように思います。ただ一方で、養護教諭同士が直接顔を合わせて学び合いたいという思いも膨らみました。そこで、今年度12月の研究協議会は万全の感染防止対策の中、対面での研究協議会を実施しました。分科会を3会場に分散し、全体会の講演は、会場をオンラインでつなぎました。久しぶりの対面でしたが、熱心な意見交換や会の合間に行われる情報交換など、対面ならではの様子が見られ、直接つながり合える喜びが感じられました。これからは様々な状況に応じながら、会員の学びたいという思いに応えられるような研修会や研究協議会を開催していきたいと思っております。



【会誌「ひだまり」の発行】

本会の活動開始時から発行されている会誌「ひだまり」は今年度で12号となります。各郡市持ち回りで作成にあたり、毎年特色のある充実した会誌となっています。内容としては、その年の研修会や研究協議会の内容、派遣研修会報告、地区活動報告、声です。「声」では様々な年代の先生方がそれまでの経験や思いを綴られています。「ひだまり」は、本研究会のまとめ、資料としての財産でもあり、また、養護教諭同士の思いを共有できる存在でもあります。

【ホームページの運用】

3年前にホームページを立ち上げ、研修のお知らせや申し込み等に活用しています。担当は、研究委員に担っていただき内容の充実を図っています。<https://ws.higo.ed.jp/yougoken/>よろしければお立ち寄りください。

（文責 熊本県養護教諭研究会 会長 宮崎 尚美）

令和4年度理事会

新型コロナウイルス感染症の第8波の中、令和5年1月14日（土）東京会場とZOOMでのハイブリットで開催いたしました。各理事の先生方をはじめ、全国の研究会長の皆様のご協力に感謝申し上げます。

北海道・東北ブロック	堀川 智恵 先生 (北海道)
関東ブロック	東 真理子 先生 (東京都)
中部ブロック	小林 友美 先生 (愛知県)
近畿ブロック	中島 理恵 先生 (兵庫県)
中国・四国・九州ブロック	金丸 真美 先生 (宮崎県)



【理事会議事録抜粋】

本会活動報告の後、運営に係る貴重な意見交換を以下のように行うことができました。

- ①「養護教諭の職務に関する調査」の全数調査について
 - ・次回も同様、全数調査とすることが承認されました。
- ②検討事項について
 - ・実施時期と周知時期
 - ・結果並びに活用等の公表方法について

情報交換では、各ブロック理事が事前に集約をした内容から「養護教諭の制度や働き方に関すること」「全養連への要望」の2点を中心に行いました。

その他、HP開設に係る（管理を含む）事項についてすでに開設している研究会からの情報を共有しました。

速報!

全国養護教諭連絡協議会 第25回研修会

- 1 開催方法 WEB開催
- 2 開催期間 令和5年8月10日（木）から9月7日（木）
- 3 演題・講師

「日本の性教育の現状とこれから —生命(いのち)の安全教育、始まった?—」

埼玉医科大学助教
地域医学・医療センター産婦人科 高橋 幸子先生

「誰かに話したくなる応急手当」

湘南鎌倉病院救急総合診療科医師
関根 一朗先生

「アタッチメントと心の発達 —その病理や障害を含めて—」

東京大学大学院教育学研究科教授
東京大学付属発達保育実践政策学センター長
遠藤 利彦先生

「思いやりの心を育むには —知育アプリからスマホ依存まで—(仮)」

予防医学研究所 所長
スマホ依存予防学会 (PISA) 代表
磯村 毅先生

- 4 その他 参加費5000円（4講座一括） 申込受付は令和5年6月中旬頃を予定しています。

※養護教諭の資質向上を目指し、充実した研修となるよう様々な分野の講師が依頼に応じてくださいました。今回も感染症対策のため、WEB開催とします。ここ数回、参加者の直接交流ができずにはありますが、動画配信はご都合の良い時間に視聴することができます。多くの先生方の参加をお待ちしています。

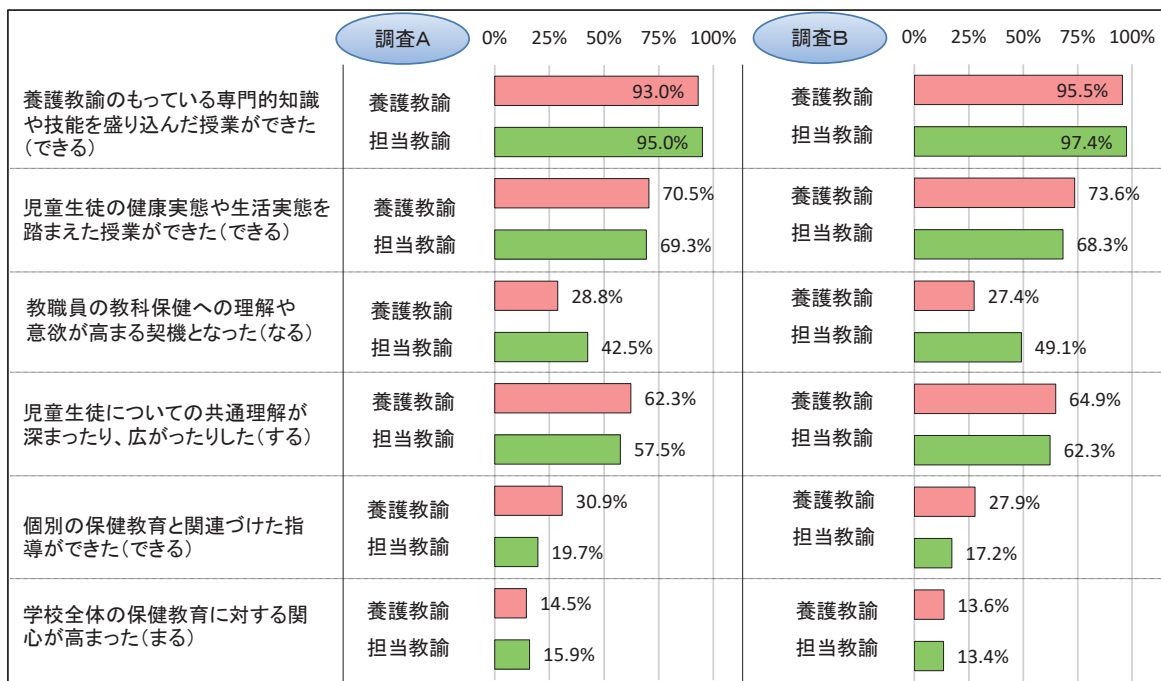
令和2年度養護教諭の職務に関する調査 ダイジェスト報告 No.3

保健教育

今回は、「保健教育」について報告します。
 ※調査Aは一人配置校、調査Bは複数配置校の回答

1 授業を担当して学校・教科担当にとってよかったこと(養護教諭・教諭比較)

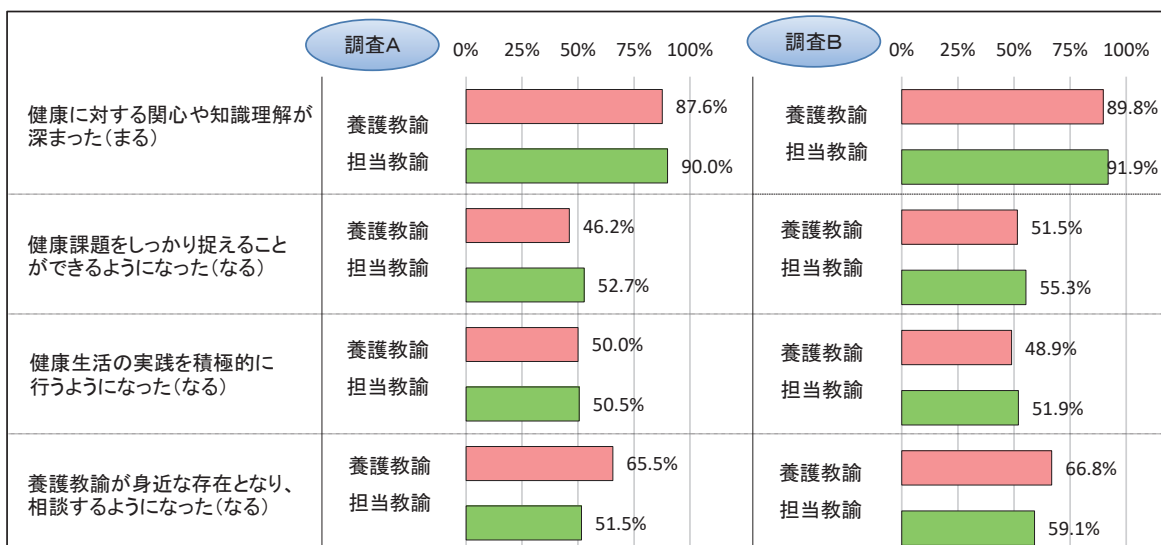
授業を担当して、学校・教科担当にとって、特によかったと思われることを、それぞれ3つ選んでください



- 調査A・B共に、養護教諭・担当教諭どちらも「養護教諭の専門的知識を盛り込んだ授業」の割合が高い。
- 調査A・B共に、「教職員の教科保健への理解」は、養護教諭に比べて、担当教諭の割合が高い。

2 授業を担当して、児童生徒にとってよかったこと(養護教諭・教諭比較)

授業を担当して、児童生徒にとってよかったと思われること全てにチェックをいれてください



- 調査A・B共に、養護教諭・担当教諭どちらも「関心や知識理解が深まった」の割合が高い。
- 担当教諭と養護教諭を比較すると、担当教諭は「健康課題をしっかりと捉える」が高く、養護教諭は「養護教諭が身近な存在」の割合が高い。